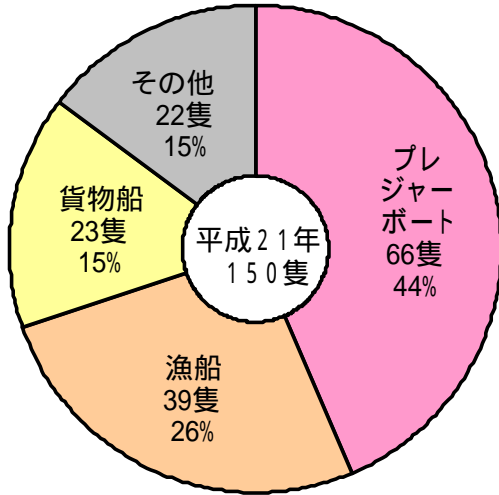


プレジャーボートの海難発生状況

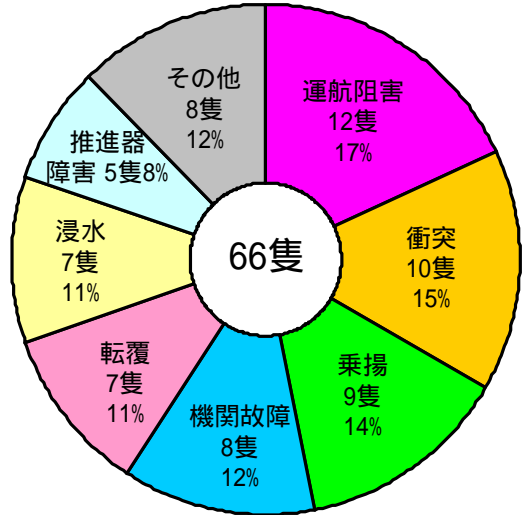
平成21年の傾向

- ・平成21年の四管区(愛知県、三重県沿岸及び沖合海域)の海難船舶隻数は150隻
- ・プレジャーボートの海難は船舶の用途別では最も多く66隻で、全体の4割強を占めている。

船舶の用途別発生隻数

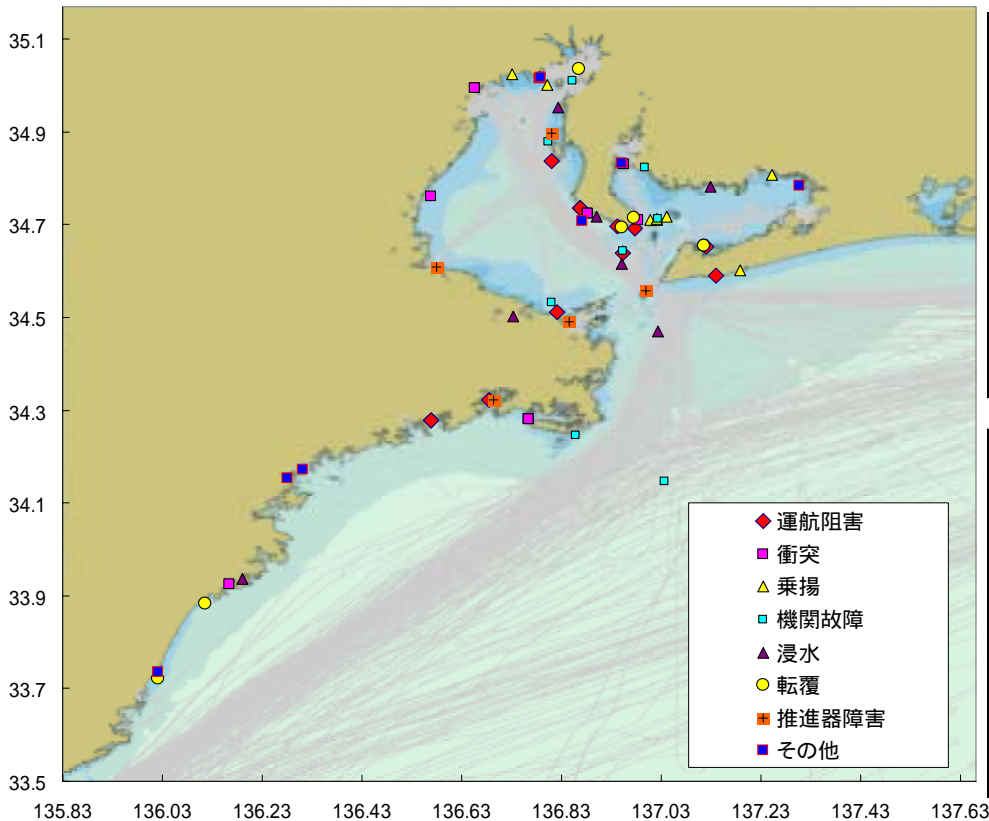


プレジャーボート海難種類別発生隻数



運航障害 : バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び無人漂流

発生位置



愛知県

乗揚	8隻
運航障害	7隻
転覆	5隻
機関故障	5隻
浸水	4隻
衝突	4隻
船舶その他	2隻
安全障害	2隻
推進器障害	1隻
火災	1隻
舵障害	0隻
合計	39隻

三重県

衝突	6隻
運航障害	5隻
推進器障害	4隻
機関故障	3隻
浸水	3隻
転覆	2隻
乗揚	1隻
船舶その他	1隻
安全障害	1隻
舵障害	1隻
火災	0隻
合計	27隻

県別は、発生位置により分類

海難事故防止のために守ること

1 見張りの徹底

航行中はもとより、釣りなどで停泊中においても周囲の状況に注意しましょう。
携帯電話、航海計器操作、会話等に気をとられ見張りがおろそかにならないように。

2 出港前の気象情報入手と各部点検

天気予報の入手、船体・機関・燃料・バッテリーの点検、海図による水路調査等出航前に十分点検確認しましょう。

3 救命胴衣の着用と連絡体制の確保

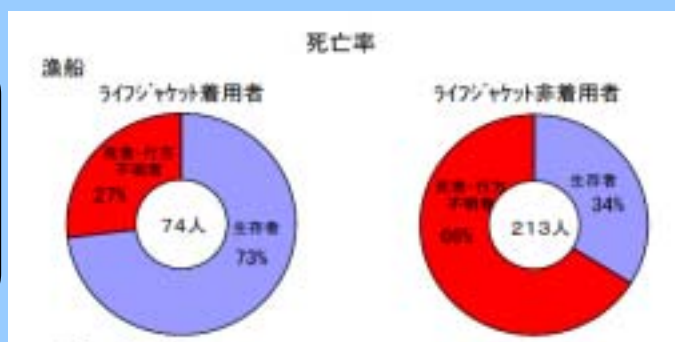
出航中は常時ライフジャケットを着用し、携帯電話等での連絡手段を確保しましょう。

救命胴衣着用の効果

漁船から海中転落した方の救命胴衣着用者と非着用者の死亡率です。

着用者の生存者の割合は、非着用者の2倍となっています。

(全国、H16年～H20年のデータ)



地域で活躍する海上安全指導員とパトロール艇

安全で秩序あるマリンレジャーの発展を図るため、地域におけるマリンレジャーのリーダー的な民間有志の方々を「海上安全指導員」として指定し、プレジャーボート等に対する様々な安全活動を行っていただいています。また、安全指導員が使用する船舶を「安全パトロール艇」として指定しており、第四管区では、120人の海上安全指導員、87隻の安全パトロール艇が海難防止活動中です。

パトロール旗



緑色回転灯



ステッカー



第四管区海上保安本部交通部安全課